

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分  
 【発行日】令和 3 年 1 月 7 日 (2021.1.7)

【公開番号】特開 2019-95641 (P2019-95641A)  
 【公開日】令和 1 年 6 月 20 日 (2019.6.20)  
 【年通号数】公開・登録公報 2019-023  
 【出願番号】特願 2017-225561 (P2017-225561)  
 【国際特許分類】

G 0 3 G 15/20 (2006.01)

B 6 5 H 5/02 (2006.01)

G 0 3 G 15/00 (2006.01)

【F I】

G 0 3 G 15/20 5 0 5

B 6 5 H 5/02 A

G 0 3 G 15/00 4 6 0

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 11 月 18 日 (2020.11.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

無端状で回転可能な第 1 ベルトと、

画像加熱部を通して加熱された状態にある記録材を前記第 1 ベルトと協働して挟持搬送して冷却するニップ部を形成する無端状で回転可能な第 2 ベルトと、

前記第 1 ベルトの内側に配置され、前記ニップ部における前記第 1 ベルトの内面に接触して熱を受ける第 1 受熱部と熱を放熱するための第 1 放熱部を備えた第 1 冷却部材と、前記第 2 ベルトの内側に配置され、前記ニップ部における前記第 2 ベルトの内面に接触して熱を受ける第 2 受熱部と熱を放熱するための第 2 放熱部を備えた第 2 冷却部材と、を有し、

前記ニップ部における記録材搬送方向に関して、前記第 1 受熱部が前記第 1 ベルトの内面と接触している区間において前記第 1 ベルトと前記第 2 ベルトを挟んで対向側の前記第 2 冷却部材には前記第 2 受熱部はなく、

前記第 1 放熱部は前記第 1 受熱部よりも、および、前記第 2 放熱部は前記第 2 受熱部よりも、それぞれ、前記記録材搬送方向に関して長く、

前記第 1 放熱部が前記第 2 受熱部と、前記第 2 放熱部が前記第 1 受熱部と、それぞれ、前記記録材搬送方向に関してオーバーラップしていることを特徴とする記録材冷却装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 3】

上記の目的を達成するための本発明に係る記録材冷却装置の代表的な構成は、無端状で回転可能な第 1 ベルトと、

画像加熱部を通して加熱された状態にある記録材を前記第 1 ベルトと協働して挟持搬送して冷却するニップ部を形成する無端状で回転可能な第 2 ベルトと、

前記第 1 ベルトの内側に配置され、前記ニップ部における前記第 1 ベルトの内面に接触して熱を受ける第 1 受熱部と熱を放熱するための第 1 放熱部を備えた第 1 冷却部材と、前記第 2 ベルトの内側に配置され、前記ニップ部における前記第 2 ベルトの内面に接触して熱を受ける第 2 受熱部と熱を放熱するための第 2 放熱部を備えた第 2 冷却部材と、を有し、

前記ニップ部における記録材搬送方向に関して、前記第 1 受熱部が前記第 1 ベルトの内面と接触している区間において前記第 1 ベルトと前記第 2 ベルトを挟んで対向側の前記第 2 冷却部材には前記第 2 受熱部はなく、

前記第 1 放熱部は前記第 1 受熱部よりも、および、前記第 2 放熱部は前記第 2 受熱部よりも、それぞれ、前記記録材搬送方向に関して長く、

前記第 1 放熱部が前記第 2 受熱部と、前記第 2 放熱部が前記第 1 受熱部と、それぞれ、前記記録材搬送方向に関してオーバーラップしていることを特徴とする。